



2023年(令和5年)

1月

No.735 since1961

広報 しばた

JP
POST

郵便局

さくら新栄郵便局



さくら新栄郵便局がオープン

12月5日、町内4局目となるさくら新栄郵便局が、フレスコキクチ柴田店の敷地内にオープンしました。

金融機関のない東船岡地区において、利便性の向上が期待されます。

2023年 新年のごあいさつ

図書館を核とした

賑わい交流拠点づくりがスタート



柴田町長 滝口 茂

昨年は、なかなか収束が見通せないコロナ禍に加え、原油や電力、ガスなどのエネルギー価格の高騰や物価高の影響で、厳しい生活を余儀なくされた一年となりました。地方においては、少子高齢化、若者の流出、農林水産業や商店街の衰退といった逆風の中にさらされたままとなっています。

一方で、地域の経済や暮らしに大きな変化を及ぼしているのがデジタル技術や先端技術の進展です。また、世界的な流れとして、SDGs

「誰一人取り残さない持続可能な社会」の実現やカーボンニュートラルに向けた取り組みが世界的規模で行われています。

時代が大きく変わろうとしている今、柴田町が明るい未来を手に入れるためには、確かな発展戦略が求められています。

現在の柴田町が置かれている社会経済状況を踏まえると、これまでのような人口増や経済成長時代の延長線で未来を想定することはもはや困難です。これからは人口減少や都市が縮小していくことを前提とした上で、町を持続的に発

展させていく政策を組み立てていく必要があります。

町は今年、こうした現状を打破し、明るい未来を引き寄せるため、令和5年度から4年間の町の政策の指針となる「第6次柴田町総合計画後期基本計画」を策定し、新たな挑戦を始めることにしています。計画の策定にあたっては、

昨年、住民懇談会や区長会議、各種団体とのヒアリングなどにおいて、計画策定の方針を説明し意見交換を行いました。皆さんからは地域や団体が抱えている課題や、柴田町のまちづくりに対する意見が数多く寄せられましたので、こうしたさまざまな意見を取り入れながら計画を策定してまいります。

今後の4年間で目指すべき都市像を、コンパクトプラスネットワーク型の都市構造を持ち、安全安心ネットが張り巡らされ、緑豊かなまちなかで人と人が活発に交流連携し賑わいあふれたガーデンシティとしています。

その実現に向けた目標の1つ目が、歩いて楽しい緑豊かなクリエイティブタウンの創造です。



地域の資源や生活文化を洗練させ、多くの人々を惹きつける創造性豊かなまちをつくってまいります。

2つ目が、安全で安心な居心地の良いまちづくりです。生活の利便性が高く、災害リスクが少ない居心地の良いまち、住み慣れた地域で安全に安心して暮らせる安全ネットを整備します。

3つ目が、まちづくりを担う人材の育成と子どもたちの成長支援です。子育てしやすい環境や子どもたち一人一人の個性と能力が発揮できる学びの環境を整備してまいります。

4つ目が、花のまち柴田のブランド化による稼ぐ力の醸成です。まちづくりの推進エンジン動かすためにも、観光、農業、中小企業などの振興を図り、税収やふるさと納税のさらなる確保に努めます。

5つ目に、デジタル化による自治体イノベーションの推進です。国が方針を示したデジタル田園都市国家構想の柴田町バージョンを策定し、住民の利便性の向上や行政運営の効率化を図ってまいります。

これらの目標を達成するためのリーディングプロジェクトとなるのが「図書館を核とした交流ゾーンの整備による市街地賑わい創出事業」です。これは、都市再生整備計画に基づく国の都市構造再編集集中支援事業を活用し、知の拠点としての新図書館の建設と町の歴史や文化が詰まったしばたの郷土館の再構築、さらに桜の名所である船岡城址公園を一体的に整備し、新た

な賑わい交流ゾーンの整備を図るものです。

新たなパブリックスペースに子どもから高齢者まで集まる仕掛けをつくり、人と人、住民と観光客やインバウンド客との交流を通じて魅力的な生活文化を築き、柴田町独自の魅力として国内外に情報発信する、まちなかソフト戦略を展開したいと思っています。

地方にとって厳しい時代が続いていますが、そうした中においても「まちを良くしたい」、そうした中においても「まちを良くしたい」、「まちをよみがえらせたい」と思う住民や職員によるまちづくりの担い手の情熱やアイデア、そして行動力によって状況を打破しようとする自治体の動きも活発になってきています。

柴田町においても、社会の変化を先読みし、機を捉えた的確な発展戦略を打ち出し、独自のまちづくりを実践していけば、必ずや次のステージへのステップアップは可能だと思っています。

今後の4年間、決意を新たに、新しい考え方や手法で、地域課題の解決に向け果敢にチャレンジし、トライアンドエラーを繰り返しながら経験値を積み重ね、アフターコロナ時代における柴田町の未来を切り拓いてまいります。

今年が卯の年、飛躍の年ともたとえられます。早くコロナ禍を乗り越え、私たちの生活が大きく向上する年にならばいいと思っています。今年もよろしく願っています。



2023年を迎えて

新たな1年の始まりに10人の方から
抱負を語っていただきました。

今年度は、生徒会会長として槻木中学校がより良くなるように精進してきました。特に伝統を受け継ぎながらも「新しいこと」に挑戦しました。その際に、一緒に活動した仲間、先生方、生徒の皆さんの理解と協力のおかげで達成することができ、「みんなで協力することで成し遂げられた」と実感しました。

思い返せば、この15年間、家族をはじめ、友人、先生方、地域の方々、関わった全ての人から愛情を受け成長することができました。義務教育も残すところ3カ月、これからは自分が今まで与えられてきたように、自分が与えられるような人になりたいです。

日々、感謝の心を忘れず、
努力・挑戦していきたいです。



いいぶち たいせい
飯淵 大誠さん
槻木中学校3年
(槻木地区 15歳)

今から7年前、定年を機に東京から風光明媚な船岡に転居してきました。30歳過ぎまで神奈川県社会人バドミントン1部で鍛えてきた身体は、仕事にかまけてバドミントンを辞めて30数年、例にもれず体重90キロを超えるメタボになりました。

これではいけないと町に相談したところ、「船岡バドミントン」を紹介してもらいました。船岡バドミントンは20代から70代までの幅広い年代が、明るく楽しく活動しており、即入部を決断しました。若者から元気をもらいながら健康維持で続けて、今では体重も70キロ台です。明るく楽しいバドミントンを今年も続けていきたいと思っています。



ちば いっせい
千葉 一清さん
(土手内地区 72歳)

去年は中学校を卒業した年で、卒業式の時に水引でストラップを作って、同級生と先生全員にプレゼントすることができました。たくさん作るのは大変でしたが、とても心に残っています。他にも一緒に高校に通っている友達のために作ったりして喜んでもらえることが嬉しいです。

母と、水引の小物作りやオペラをやっていて良かったのは、イベントや発表会でいろいろな所に行けることと、そこでいろいろな人と出会って友達になることができることです。去年は3年ぶりにオペラの発表会をすることができたので、今年は難しい曲にも挑戦していきたいと思います。



わがつま ふうが
我妻 風芽さん
(船迫地区 15歳)

水引を使ったハンドメイドの小物を、娘と一緒に作り始めて6年程になります。「花の音 - ハナノネ -」という名前で、イベントやスーパーマーケットでの販売のほか、注文を受けての制作もしています。今年は新たにインターネットでの販売に挑戦したいと思っています。

また、「岩沼のすずの会」でオペラを、「角田ベートーヴェン第九」で合唱を娘と一緒にやっています。今年は町内でもオペラと合唱を発表できる場を持てればと考えています。オペラと合唱、作品の制作を両立させ、私達も見てくださる方も笑顔になれる活動を続けていきたいと思っています。

わがつま あけみ
我妻 明美さん
(船迫地区 49歳)

小学校1年生から取り組んでいるバスケットボール。最初は自分の意志で始めたわけではありませんでしたが、今では全力で取り組んでいます。

高校に入って約1年半、少しずつチーム力が上がり、自分たちのプレースタイルを確立してきました。練習では、走る



しょうじ
庄司 ここあさん
柴田高校2年
(船岡地区 17歳)

メニューが多く辛いこともあるけど、仲間と共に乗り越えています。

高校3年生となる今年は、地区大会優勝&県大会ベスト8を目標に、残り少ない練習を大事にしていきます。また、部長という大きな仕事を任せられ、常に重圧もありますが、最後までチームの皆を引っ張っていきたいと思います。

私は幼少期に父の影響を受けて始めた、弦楽器・管楽器・打楽器などのさまざまな楽器を通して、多くの人とお付き合い頂きました。昨年5月に4区集会所を中心に活動している「BB4/GG4」と「レットビーンズ」に入れていただき、昔懐かしい音楽を、歳を忘れて楽しんでいます。



ながさわ こうじ
長澤 紘司さん
(西住地区 80歳)

音楽は歌う・聴く・演奏することで認知症の予防になると言います。またミュージックツーリズムと称し、音楽と観光を結び付けて、地域の活性化につなげる動きがあります。私は、花のまち柴田に音楽を取り入れ、「花と音楽のまち柴田」にするため少しでも地域づくりに貢献できればいいなと思っています。

多肉植物を趣味として17年。好きが高じて自ら多肉植物を生産・栽培することを決意し、昨年4月に就農しました。

昨年は、諸先輩方の知恵と力を借りながら、船岡城址公園での委託販売や、寄せ植え教室の開催を実現することができ、やりがいを持って過ごすことができました。今年はさらに植物栽培に関連する知識と経験を重ねつつ、寄せ植え教室などの開催を通して、地域の皆さんと触れ合いながら多肉植物の素晴らしい魅力を発信していきたいと思っています。

いつか「花のまち」柴田町が「花と多肉植物の町」と呼ばれるように尽力していきます。



みやざき かずゆき
宮崎 和之さん
(北船岡地区 40歳)

元々絵が好きで、知人の画廊に通うようになったことがきっかけで、4年前からドライポイントでの紙版画を始めました。紙版画はインクの乗せ方などで表現が変わるので、どのような作品に刷り上がるのか毎回楽しみに作品を作っています。また版画にする絵は、大喜利のように見た人がグスッと笑って楽しくなる物語になるように心がけています。

去年は、作品の制作に打ち込める環境が整ったターニングポイントになった年でした。紙版画だけでなく、木工作品のための工房も完成したので、今年もワクワクできるユーモアのある作品作りをしていきたいと思っています。



かねこ やすひろ
金子 康宏さん
(東船迫地区 57歳)

友人に誘われて高校から始めたウエイトリフティング。昨年はコロナ禍の影響もあり納得のいく練習ができず、81kg級から73kg級に階級を落としてインカレに臨みましたが、減量が思うようにいかず、100%のパフォーマンスを発揮することができませんでした。



きくち しょうた
菊地 渉太さん
仙台大学2年
(船岡地区 20歳)

現在は順調に練習を積めており、89kg級でのインカレ優勝を目指して、ウィークポイントの克服を主眼に置いて取り組んでいます。

この階級には、私をウエイトリフティングの道に誘ってくれた友人が、別の大学で出場します。試合で戦えることが今から楽しみです。

私は小学校1年生からガールスカウトに所属しています。その活動の一環で、SDGsの資料をもらったことがきっかけで、環境問題に興味を持ち、買い物へ行くときはマイバッグを持参する事や着なくなった洋服を近所の小さい友達にゆずることなど、自分なりにできることを探して取り組んできました。



はりゅう かなな
針生 菜奈さん
船迫小学校6年
(西船迫地区 12歳)

今年は、物を大切にできるだけ長く使うことやゴミをしっかりと分別することなどを目標として取り組み、環境問題の改善に少しでも貢献する活動ができればいいなと思っています。

誰もが暮らしやすい社会をめざして

第5回 障がい者支援への取り組み

問 福祉課 Tel.55-5010

広報しばたでは、令和3年12月号から5回に渡り、障がいについての理解を深める特集を続けてきました。今回は町内で障がい者への支援をしている「四季さくら」、「ふれあい手話サークル」、「榊アスム療育・研修センター」、就労支援などをとおこなっている「ほつとファーム(株)」、「はらから福祉会」の取り組みについてご紹介します。

支援者の皆さんが、どのような思いで活動を始めてこられたのか、また、当事者の方への思いなどをお話しいただきました。

障がいには、さまざまな種類や個性があり、配慮するポイントもその個性によってさまざまです。

この特集を通じて、一人一人が障がいを理解し、助け合うことで、「誰もが暮らしやすい社会」を築き、柴田町がより一層住みやすいまちになるようにしていきます。

柴田視覚障がい者福祉協会 四季さくら

平成29年設立(会員30人)



会長 豊川 長光 さん
とよかわ みつお

ボランティアで点字を作ったとしても、それを必要な人に届け

る手段がなく、必要としている人も、どこに相談をすればいいのか分からない。視覚障がい者を取り巻く環境を社会に知ってもらう機会も少ない。そのような現状に悩んでいる当事者やその家族、支援者から集まれる場が欲しいと相談されたことが、この「四季さくら」のスタートでした。

四季さくらの主な活動は、隔月に1回、情報交換をメインとした交流会「四季さくらカフェ」の開催です。当事者、その家族、支援者が集まり、それぞれの近況報告や、町からの支援制度の説明を受けたりしています。

当事者の声を届ける

当事者の悩んでいることが四季さくらカフェで出てくるので、その声を「一緒に考えよう」と行政に提案すること

もあります。この当事者と行政の架け橋になれるということが、団体で活動するメリットでもあります。当事者個人では、1人の意見にしかありませんが、団体となれば複数人の意見を吸い上げることで、当事者の声により行政に届きやすくなるのです。

○四季さくら会員 早坂さんの声

選挙時の視覚障がい者の投票方法や音響信号の音量改善など個人で相談していた時にはなかなか進まなかった話も、会として提案することで解決することができました。

当事者やその家族が豊かな人生を送ることができるように

目が不自由だと、当事者も家族も危険だからと家にこもりがちになります。会として、当事者が家の外に出て楽しめる場を作りたいと思っています。行きたい場所や、やりたいことなどの目標があると、楽しく生活を送ることができると思います。

まだまだ支援を必要としている人は多くいます。これからも視覚障がい者に優しいまちづくりを目指して頑張っていきたいと思っています。

ふれあい手話サークル

平成15年設立(会員12人)



代表
すえなが 末永 はるみ さん

ふれあい手話サークルは、町社会福祉協議会で手話講座を受講し

た方が、もっと手話を覚えたいとの要望から設立したサークルです。サークルでは、まず自分の名前を手話で覚えることから始め、徐々に聴覚障がい者と手話で会話ができるように教えていきます。

聴覚障がい者は、みんな手話ができると思われるかもしれませんが、しかし、中途失聴者の多くは手話を使うことができません。そのような人も、サークルへ勉強にきています。

手話は目で見える言語

手話は当事者同士、または当事者と支援者の一对一の会話に用いるだけに留まりません。手話を使うことで、当事者も支援者も周囲でどのような話をしているのか目で見て理解することができますのです。

手話への理解を広めるために

手話や聴覚障がいへの理解者を増やしていくため、サークルでは学校や町のイベントでの手話ボランティアなどの活動を行ってきました。

小学校の手話教室では、子どもたちの好きなことを手話で話す方法を教え、「もっと手話を知りたい」と、興味を持ってきています。

また、数年前から、仙台で開催されている「とつておきの音楽祭」という障がいの有無に関わらず音楽を楽しめるイベントに参加し、手話ソングを披露したりしています。

しかし、最近では新型コロナウイルス感染症の影響で活動の機会も少なくなっているのが現状です。手話を理解し、興味を持ってくれる人を少しでも増やすため、今後も活動を継続していきます。



株式会社アスム療育・研修センター

(柴田町障害児通園施設)

むつみ学園受託事業者)

平成27年設立



代表取締役
おみや ひろと 大宮 弘人 さん

私自身、自閉症スペクトラムの子どもを持つ保護者として、父親

の会を立ち上げ、活動を続けてきました。また、むつみ学園に通園しているなかで、さまざまな方と出会い、当事者やその家族が地域で安心して暮らしていくために、何かお手伝いできることがあるのではないかと、思いから会社を設立しました。

当事者の特性に合わせた個別・寄り添う支援のために

私たちアスムでは、中学生までの自閉症児を対象とした、日常的な生活を送る為に、家族と共に「分かる・できる」を自信と安心につなげる支援を行う「療育」。自閉症児・者の福祉施設にて当事者に関わる支援者へ、自閉症に対する理解を深めながら支援方法を共に構築する「コンサルテーション」。支

援に関わる家族、支援者により深く学びを提供する「アカデミー」。この3つを自閉症支援の柱としています。

また、むつみ学園の受託事業者として仙南1市4町(角田市、柴田町、蔵王町、大河原町、村田町)の自閉症児へのサポートを行っています。

できるを伸ばす支援

自閉症には、コミュニケーションや人との対人関係が苦手だったり、気持ちの切り替えが難しく、興味関心があることに集中するなど「こだわりの強さ」などの特性が見られます。

しかし、その特性は理解されにくく、不適切な対応をされることも少なくありません。

私たちは、自閉症の支援に必要な知識と経験を有する専門スタッフが、子どもの特性を見極め、今できることを伸ばし、苦手なことも少しずつ成長できる支援に重点を置き、小さな自立をお手伝いしています。

今後は、自閉症で悩む保護者の方に、私たちやむつみ学園という相談先があるという事を知っていただき、また、自閉症が正しく理解され、支援が当たり前に受けられる社会の構築を目指していきます。

障がいに関わらず仕事の選択の自由を

ほっとファーム株式会社 平成24年設立



代表取締役
あいざわ こうや
相澤 光哉 さん

障がいをもつ方、その家族がかかえる「生きづらさ」を何とか変えていきたい。その思いから、ほっとファームはスタートしました。企業理念である「公利公欲」の下、自分の利益や欲望を求めず、取り巻く人たちに対し有益であることを掲げ、県内全域での事業展開を目標にしています。設立当初、就労支援にあたり、利用者が全ての作業を自分たちで行えるものでなければならぬというのが私たちの考えでした。そこでたどり着いたのが、しいたけの菌床栽培でした。現在ではそれ以外の事業も広く展開しています。

主な事業内容

- ・ 就労継続支援A型
(しいたけ栽培、
カフェ運営)
- ・ B型 (委託作業ほか)
- ・ 就労移行支援
- ・ 障がい者相談支援事業
- ・ 放課後等デイサービス
- ・ 日中一時支援事業

ほっとファームでは、就労支援を障がい福祉のくくりでは考えず、利用者の皆さんを、社会に出て責任ある仕事をしている社員として接しています。

そのような中で利用者の方からは、こんな仕事をしてみたいと意見をいただきます。どうすればその願いを実現することができるのか、やれる方法を模索し、障がいの有無に関係なく、職業が選択できる社会の実現を目指しています。

利用者の声 杉田 あさ美 さん (ibis café 槻木)

お客さまにゆったり過ごしてほしいので、笑顔で丁寧な接客を心がけています。ここで働くようになり周囲に気を配ることができるようになりました。この仕事を通して、自分の夢を見つけたいと思います。



一般就労に必要な知識を身に付ける
就労移行支援



「こんな仕事がしたい」との意見から
生まれたカフェ



全ての工程を利用者が主体的に
作業できるしいたけ栽培

障がい者が自立できる賃金を目指して

社会福祉法人 はらから福祉会 昭和58年設立



理事長
たけだ はじめ
武田 元 さん



昭和58年、当時の船岡養護学校（現船岡支援学校）の卒業生は、就職できないと通所支援施設がなく、1日中自宅に居るしかありませんでした。それは本人も家族も想像以上に辛いだろ
うと思いい、現状を変えたくて有志で設立したのが、はらからです。

設立当初は陶器を作って販売していました。陶器は焼くまでは何度もやり直しができ、長期保管することができることから、障がい者の就労支援を行う先進地でもよく取り入れられていました。しかし、陶器には壊れるまで買い換えないと
の問題があり、売り上げが伸びず、利用者への賃金も伸びませんでした。

これではとても障がい者が生活できる賃金を支払うことは不可能で、試行錯誤の末たどり着いたのが、はらからの代名詞となる「とうふ」の製造です。当時は、障がい者にとうふの製造は

無理だとの声もありましたが、私たちは2つのポイントでそれを克服しました。1つ目がチーム化です。

材料を量る、洗う、水に漬ける、機械に入れるなど1人で行うと難しいことも、チームで分担すれば必ず単
純な作業が出てくるので、さまざまな特性を持つ利用
者が作業しやすくなります。またチームで作業すること
で、自分以外の作業に興味を持ち「やってみたい」と
いう意欲も生まれてきます。2つ目が機械化です。ど
うしても利用者では難しい部分は、積極的に機械を導入
しています。勿論、機械も利用者が操作できるもの
を取り入れています。

現在、雇用契約を結ばない就労支援B型の賃金は全
国平均1万6千円ほどです。はらからでは、月7万円の
賃金を目指しています。こ
れは障害年金と合わせて月
15万円の収入があれば自立
した暮らしができると思え

ているためです。今までの障がい者の就労は、安全で難しくなく設備
がいらないというのが一般的
でした。しかしそれでは
賃金も低く、生活ができません。私たちは、利用者の
皆さんの暮らしのためにも
消費者が求めるものを作り
続けていきます。



細分化した工程に、機械を導入し作業しやすい環境を整えています

主な事業内容

- ・ 就労継続支援B型
（豆腐、油揚げ、牛タン、
レトルト 食品製造
など）
- ・ 就労移行支援
- ・ 自立訓練（生活訓練）
- ・ グループホーム運営

4月1日(土)
オープン

槻木生涯学習センター内に 柴田町サービスセンター を開設します

槻木事務所 Tel.56-1311
生涯学習課 Tel.55-2135

柴田町サービスセンター窓口



柴田町サービスセンターは、槻木生涯学習センター窓口と一本化になります。

業務日時／火～土曜日（祝日および年末年始を除く）

午前8時30分～午後5時15分

※槻木生涯学習センター開館日と同様

問い合わせ（4月1日より）／Tel.56-1997 Fax.56-1982

※槻木生涯学習センター共通

取り扱い業務／下記の行政証明書交付

| 証明書の種類 | 留意事項 |
|-----------------|--|
| 戸籍謄本・抄本 | 左記以外の戸籍証明書は役場で交付 |
| 住民票の写し | 除票、広域交付住民票（住所が柴田町外のもの）は役場で交付 |
| 戸籍の附票の写し | 除かれた戸籍の附票の写し（除附票の写し）は役場で交付 |
| 印鑑登録証明書 | 印鑑登録証が必要です。（印鑑の登録は役場で行ってください。） |
| 所得証明書 | 最新年度のみ交付 ※毎年6月15日に最新年度に更新されます。 （左記以外の税証明書は役場で交付） |
| 児童手当用所得証明書 | |
| 町・県民税課税（非課税）証明書 | |

町では、「柴田町公共施設等総合管理計画（平成29年策定）」および「柴田町公共施設個別施設計画（令和元年策定）」に基づき、老朽化した槻木事務所の建物を除去し、槻木生涯学習センター内へ新たに「柴田町サービスセンター」を開設し、住民票・戸籍・税などの各種証明書の交付業務を行います。

これまで槻木事務所で行っていた各種手続き（住民異動、国民健康保険加入、国民年金加入、介護保険関係申請、高額療養費申請など）は、役場の各担当窓口での対応となります。

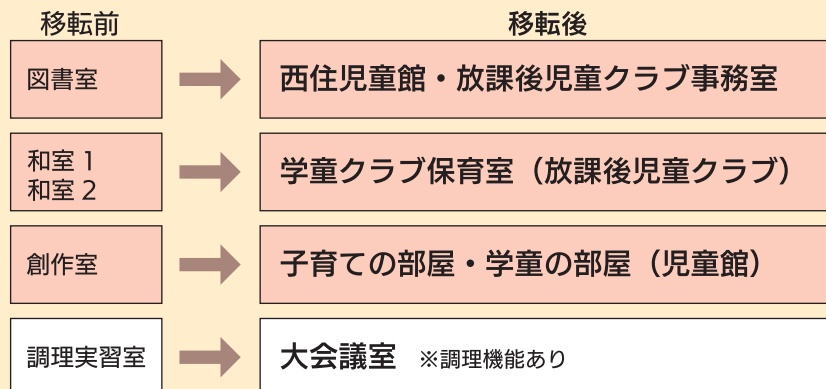
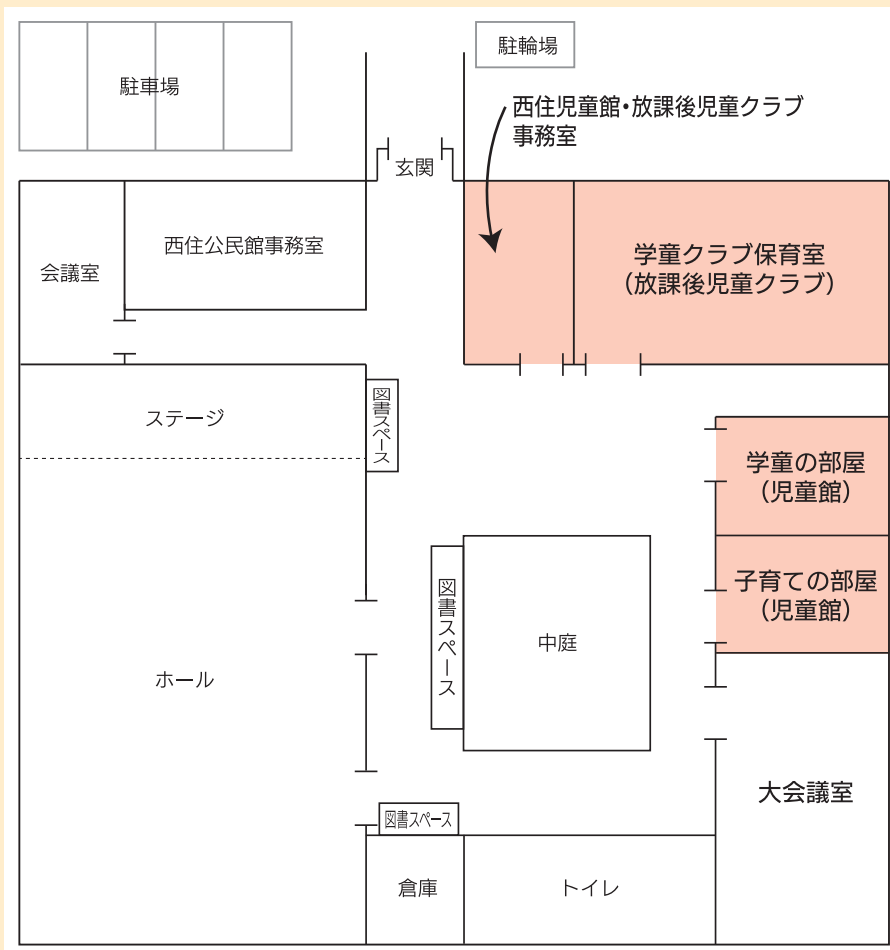
また、町税、介護保険料、後期高齢者医療保険料などの納付についても、サービスセンターでは取り扱いできません。納付書に記載されている納付場所（町指定の金融機関またはコンビニエンスストアなど）をご利用ください。

4月1日(土)
より

西住児童館が西住公民館に移転します

☎子ども家庭課 Tel.55-2115
生涯学習課 Tel.55-2135

西住児童館移転後の西住公民館のレイアウト



現在の西住児童館は、昭和45年の建築から50年以上が経過し、建物の老朽が著しく、また、近年発生した地震の影響により、損傷箇所が増えていきます。さらに耐震性が確保されていないこともあり、柴田町公共施

設等総合管理計画に基づき、他の施設との機能集約・複合化の検討を進めてきました。この度、利用児童の安全確保を図ることもから、西住児童館を、西住公民館内に移転します。

児童館移転後の施設利用について
公民館および児童館の利用については、それぞれの施設の業務時間に準じます。西住公民館は月曜日休館ですが、西住児童館は月曜

日開館しています。施設は開いていますが、公民館としての利用はできません。また、夜間については、児童館の利用状況により公民館業務終了後も施設が開いている場合があります。



第98回のテーマは、 「からだ測定会で健康チェック」です。

自分の体の状態を確認し、健康づくりをはじめるときっかけづくりとして、18歳以上の方を対象にした「からだ測定会」を実施しています。今回は測定会の内容を紹介します。

メニュー1 体組成測定

1分ほどで両腕、両足、体幹の筋肉量や体脂肪量などが詳しく分かります。結果を見て、ご自身の生活習慣の振り返りに役立ちます。

外見から判断が難しい隠れ肥満もチェックできます。



メニュー2 ロコモ立ち上がりテスト

「立つ」、「歩く」といった身体能力（移動機能）が低下している状態のことをロコモ（ロコモティブシンドローム）といいます。

片足で40cmの椅子から立ち上がれなければロコモです。



メニュー3 軽運動

ご家庭でできる、簡単なストレッチや筋力トレーニング法を紹介します。身体活動量を増やして、生活習慣病やロコモ予防につながります。



からだ測定会では健康しばたサポーターが活躍中

町が開催する養成講座を受講した健康しばたサポーターが、からだ測定会や各種保健事業で皆さんの健康づくりのお手伝いをしています。



保健師からのアドバイス

ロコモが進行すると、将来支援や介護が必要になる可能性が高まります。年齢に関わらずロコモは予防が大切です。予防に効果的な運動は右記の二次元コードからご覧ください。



ロコモ ONLINE
二次元コード

図健康推進課 TEL55-2160

16 平和と公正をすべての人に



私たちとSDGs 連載⑩

問まちづくり政策課 TEL54-2111

ゴール 16. 平和と公正をすべての人に

世界には紛争が絶えず、約2億5千万人の子どもが紛争の影響を受ける地域で暮らしています。紛争が身近でない日本でも、家庭内暴力などで多くの子どもが命を落としています。

平和と公正の実現には、法律に基づく公正な制度を誰もが利用できる形で整備し、争いや不正が起きない環境をつくる必要があります。身の回りの平和や公正について考え、自分の組織や国の選挙で意見を発信していくことが重要です。

まちかど NEWS

町内4郵便局でカードの申請が行えます。



郵便局でマイナンバーカードの申請支援がスタート

12月1日から柴田町、村田町、丸森町の3町の郵便局窓口で県内初のマイナンバーカードの申請支援がスタートすることに先立ち、11月30日(水)、柴田町役場で取扱開始式が行われました。

日本郵便(株)東北支社金隆幸（金たかゆき）経営管理本部長は「国が推進する事業に郵便局が関わることでできるのは嬉しいことです」と述べられました。

プロオーケストラの音色を体感

12月9日(金)、船岡中学校で、仙台フィルハーモニー管弦楽団のコンサートが開催されました。

このコンサートは(株)七十七銀行の地域貢献活動の一環として、小中学生がオーケストラの演奏に触れる機会を提供する目的で行われたものです。演目もハリー・ポッターの劇中曲など、生徒にも耳馴染みのある音楽が演奏されました。

間近でプロの演奏が聴ける貴重な体験でした。



3日間で約1,400鉢ものシクラメンが売れました。

シクラメン&多肉植物即売会

12月9日(金)から11日(日)まで、柴田町観光物産交流館さくらの里で、シクラメンと多肉植物の寄せ植えの販売会が行われました。

今年は、近年ブームになっている多肉植物の寄せ植えの販売もあり、販売会は例年より多くの人で賑わいました。

訪れた方は、「きれいなシクラメンが買えて満足です」と話してくれました。

告 告

告 告



こうほう 文芸

短歌

短日に見渡す湖水の漣に
入り日鮮やか煌めく湖面
榎木 平間 三郎

時刻表めぐりて今日(は)どこ行こう
あの駅この駅ベッドの上で
船岡 可沼 妙子

小春びよりグランドゴルフ活かに
へたの横好き久々の2打
西船迫 下浦 智子

カート押す道辺の花屋に葉牡丹の
冬陽を浴びて色あたたかし
船岡 つかのめけいこ

老いとなり身の丈縮む神棚の
大掃除は男孫の手借りるか
榎木 白石 光子

ありがとう青き朝顔へブンリー
初霜あびてまた来季かと
西船迫 安ヶ平良三

その内にその内は何処胸の中
約束果せず木枯らし吹いて
船岡 伊藤タイ子

晩秋のわずか花咲く庭もい
小さく大きく揺れる曇天
西船迫 星 裕子

遠き日に二十枚もの障子はり
清らに迎えた一家の新年
船岡 沢田 順子

進み行く世の流れにも遅れずと
孫に引かれて今日も「よいしょ」と
本船迫 森田 眞六

川柳

田園に鷺渡りし美しき
青春も只見線も密なんだ
榎木 永井 貞子

コロナ禍にサンタが来たと孫の顔
赤とんぼ帽子のつばでひと休み
北船岡 鳥井崎 功

霜降りしカモの大群田に集う
麦入れて炊いたご飯の旨いこと
榎木 加藤 マサ

おまたせしインフルエンザコロナもね
寒暖差異常な姿に熟れた柿
西船迫 阿部美代子 安ヶ平良三

村上 紫寿

俳句

天高し朝焼け輝く日の出前
松島の船より霧む蔵王山
榎木 平間 三郎

大年の空へ突き出る曇針
大吉の神籤しばらく離さざり
船岡 可沼 妙子

電柱の影の伸びだす大旦
高らかな笑ひ声あり女正月
齋藤 善則 石母田星人

鎌形 清司 飛鳥

枯山や色あざやかな歩人の波
朝刊の胸にしみいる冷たさよ
船岡 沢田 順子

小正月やもめは粥と酒あれば
もこもこおしくらまんじゅう寒雀
西船迫 安ヶ平奈津枝

初挽きのこけしすつくと生まれけり
御降りや海へ大地へひたすらに
鈴木 幸子 峠 三枝子

賀状待つ木々の葉散りて山眠る
安藤 節子

安ヶ平奈津枝

俳句・川柳・短歌に興味があり、こうほう文芸に載せたい方は、はがきなどで1月12日(木)まで応募ください。 編集 まちづくり政策課 TEL.54-2111

広 告

広 告

広 告

広 告



我が校の学力向上の取り組み

船岡小学校では、日々の授業で「自分の考えを表現する力」や「友達の考えと比べ同じところや違いを見つけてことができる力」の育成を目指し、学習意欲や学力向上につながる授業づくりに取り組んでいます。

自分の考えをしっかりと書く活動

これまでは、ノートには学習内容のまとめなどを書くことを指導してきましたが、子どもたちが授業で「分かったこと」をしっかりと書くことに力を入れています。良く書けている児童のノートを教室や廊下に掲示し、友達の良さや表現の工夫を見合っています。現在は、ノートを見れば「今日の授業で何を学んだのか、どんなことが理解できたのか」が分かるようになってきていますので、家庭学習の際にプラスになっています。

自分の考えや多様な考えを共有し、表現できるICTの活用

児童は、一人一台のパソコンで教科書の二次元コードを読み取り、学習内容に関連した動画をみて理解を深めています。また、教室の大型モニターを活用し、子どもたちの考え方・意見を大きく提示し、いろいろな考えを共有しています。

さらに、上学年では、一人一人が考えや意見を、パソコンを使いWeb上に書き込むことを通して、情報を共有する姿や友達の考え方から学ぶ姿、自分の考えを深める姿も見られようになってきています。

以上の活動を積み重ねて、「分かった」、「できた」という子どもたちの声が響く学校を、先生方と共に創っていきます。



大型モニターを使って意見発表

〔船岡小学校長 齋藤 和志〕

広 告

広 告

広 告

広 告

町内で働く若い世代の方の思いや夢などを紹介するコーナーです。

安全な現場管理を 心掛けています

有限会社 伸建コーポレーション

岡崎 祐太さん (34歳)

今回は、建築工事全般を手掛ける(有)伸建コーポレーションの岡崎祐太さんを紹介いたします。



岡崎さんは、高校卒業後に専門学校で建築を学び、6年間東京の建築会社で修行したあと、8年前に宮城県に戻り、父が経営する(有)伸建コーポレーションに入社しました。

現在は、建築部主任として建設関係全般の現場管理を任されています。「民間の建設工事や県が発注する公営住宅改修などの公共工事を請け負っています。私の受け持つ現場管理は、着工から竣工まで工事全般に関わる仕事です。スケジュールを調整する工程管理、安全に工事を進めるための安全管理、工事の施工状況を記録する写真管理、それに合わせて、工事に必要な書類を揃えます。また公共工事では、それに加えて使用する材料の検査を受ける必要があるため、その準備なども行います」と話します。

「工期が決まっている中で、天候などにより、工程に遅れが生じた際の業者間の調整に苦労します」と話してくれました。



工程の進捗を確認する岡崎さん。

現場管理において、特に安全管理に力を入れているという岡崎さん。県が発注する工事において、特に安全管理に努めている現場代理人を表彰する「建設工事事務防止優良者」を5回受賞し、令和4年度表彰で特別賞を贈られました。始業前の朝礼でのKY(危険予知)活動、現場での整理整頓を徹底し、事故の無い安全な現場管理に努めていると言います。

また、(株)伸建コーポレーション自体も、県の優良な工事を施工した業者を表彰する「優良建設工事施工業者表彰」を毎年受賞しています。「会社として、私自身としても仕事ぶりを評価していただけたので、とても名誉なことだと感じています。受賞は県の工事入札で工事成績として評価され次の仕事につながります。引き続き精進していきたいと思っています」と話してくれました。これからも頑張ってください。



有限会社 伸建コーポレーション
柴田町剣崎2丁目7-7
TEL 59-2220
平成11年設立。民間事業、公共事業の建築工事全般を手掛ける。
従業員5人

人口と世帯数
(令和4年12月1日現在)



36,958人
(前月比19人減)



18,402人
(前月比6人減)



18,556人
(前月比13人減)



16,228世帯
(前月比2世帯減)

※平成24年7月9日の住民基本台帳法の改正に伴い、外国人を含む人口と世帯数となります。